

他機関が実施する調査データ分析結果報告

(第 24 回長浜企業景況調査参考資料)

報告年月 令和 4 年 8 月

長浜商工会議所

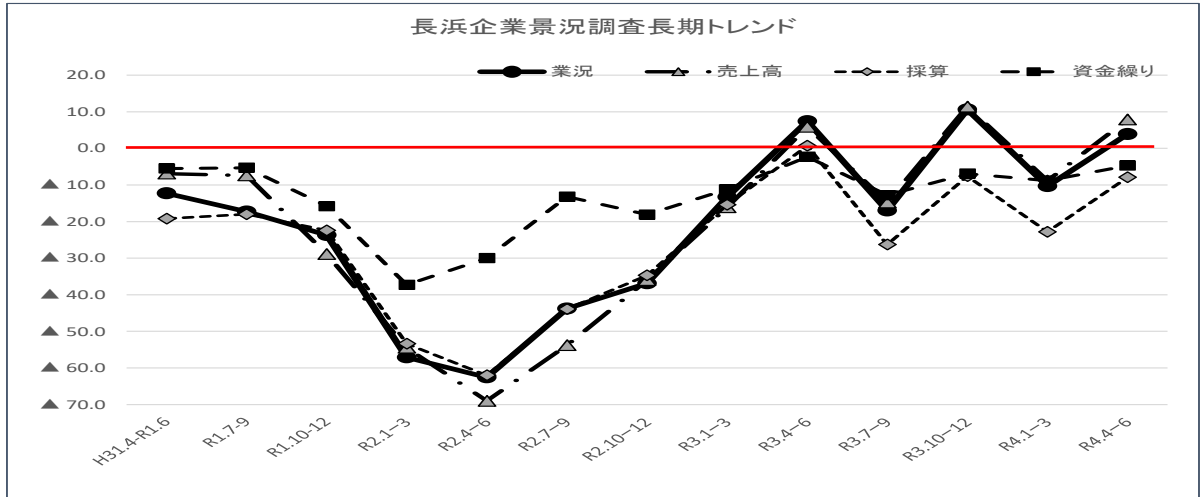
目 次

1. 長浜市の景況	
(1) 長浜企業景況調査…各種DIの長期トレンド	1
(2) 長浜企業景況調査…業種別販売価格、仕入価格、業況DI	1
2. 滋賀県の景況	
(1) 滋賀県景況調査報告(滋賀県商工政策課編)	2
(2) 県内経済概況((株)しがぎん経済文化センター編)	7
(3) 中小企業アンケート結果(滋賀県信用保証協会編)	9
3. 近畿の景況	
(1) 地域経済動向(近畿)(内閣府編)	10
(2) 中小企業景況調査(近畿)(中小企業基盤整備機構編)	10
4. 全国の景況	
(1) 日銀短観(日本銀行)	11
(2) 中小企業景況調査(全国)(中小企業基盤整備機構編)	13

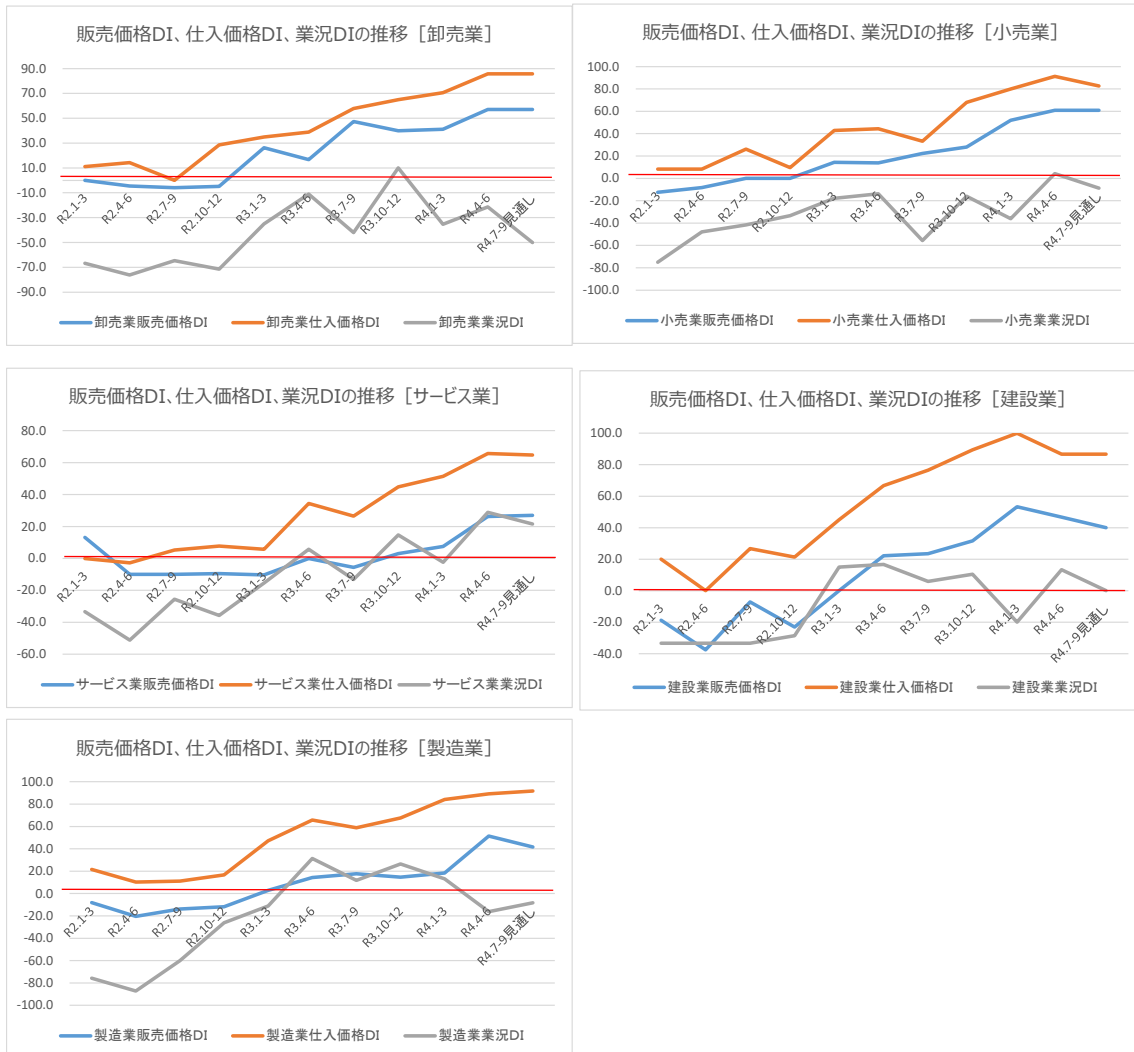
※本資料は上記資料をもとに作成したが、一部加筆変更部分が含まれる。

1. 長浜市の景況

(1) 長浜企業景況調査…各種DIの長期トレンド [前年同期比較]



(2) 長浜企業景況調査…業種別・販売価格、仕入価格、業況DI [前年同期比較]

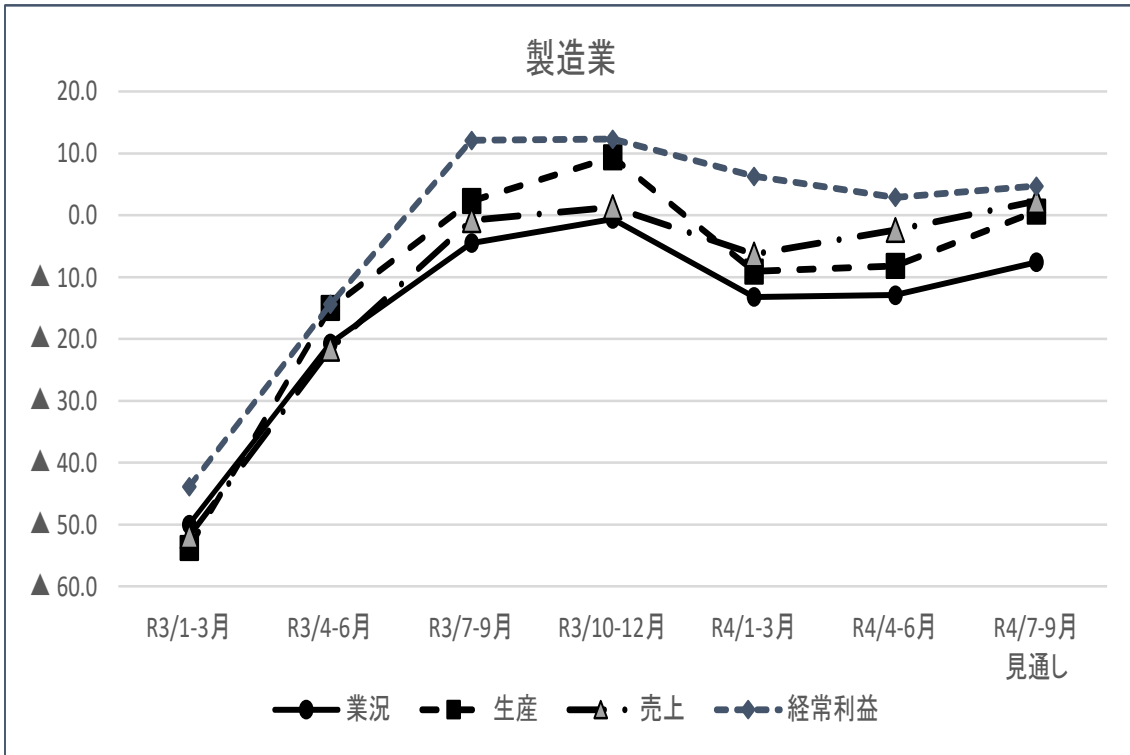


2. 滋賀県の景況

(1) 滋賀県景況調査報告（滋賀県商工政策課編）

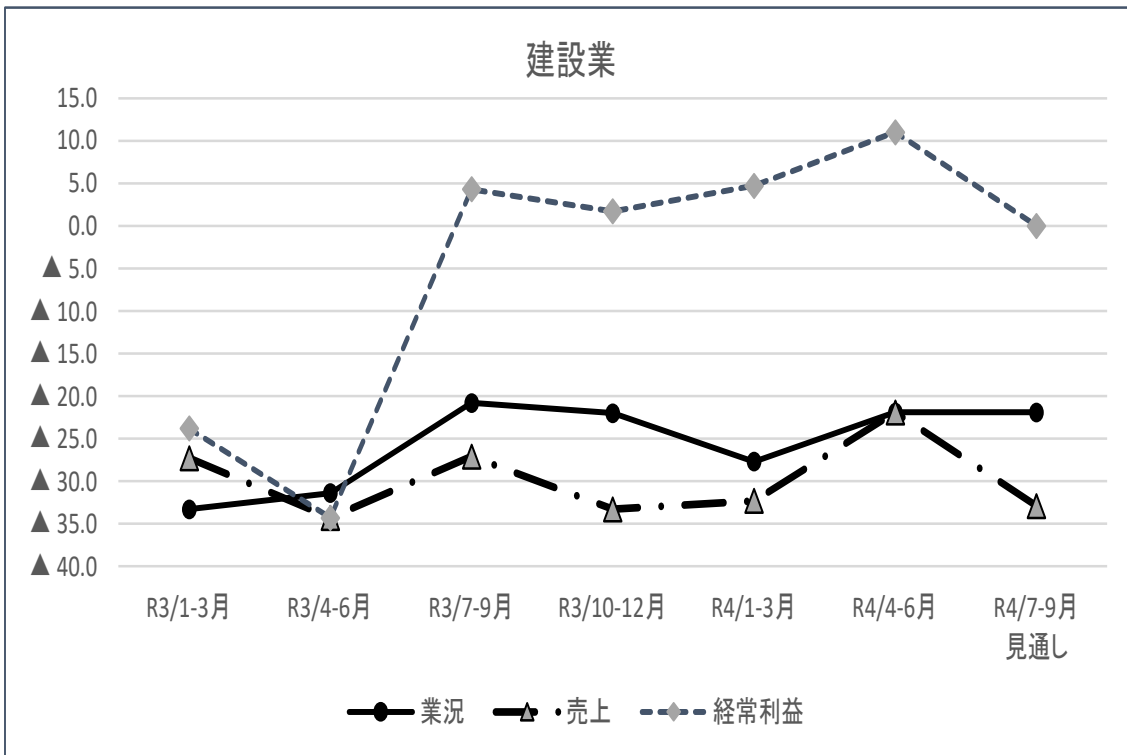
① 滋賀県の業種別景況動向

（R4/4-6月実績、R4/7-9月見通し）〔前年同期比較〕



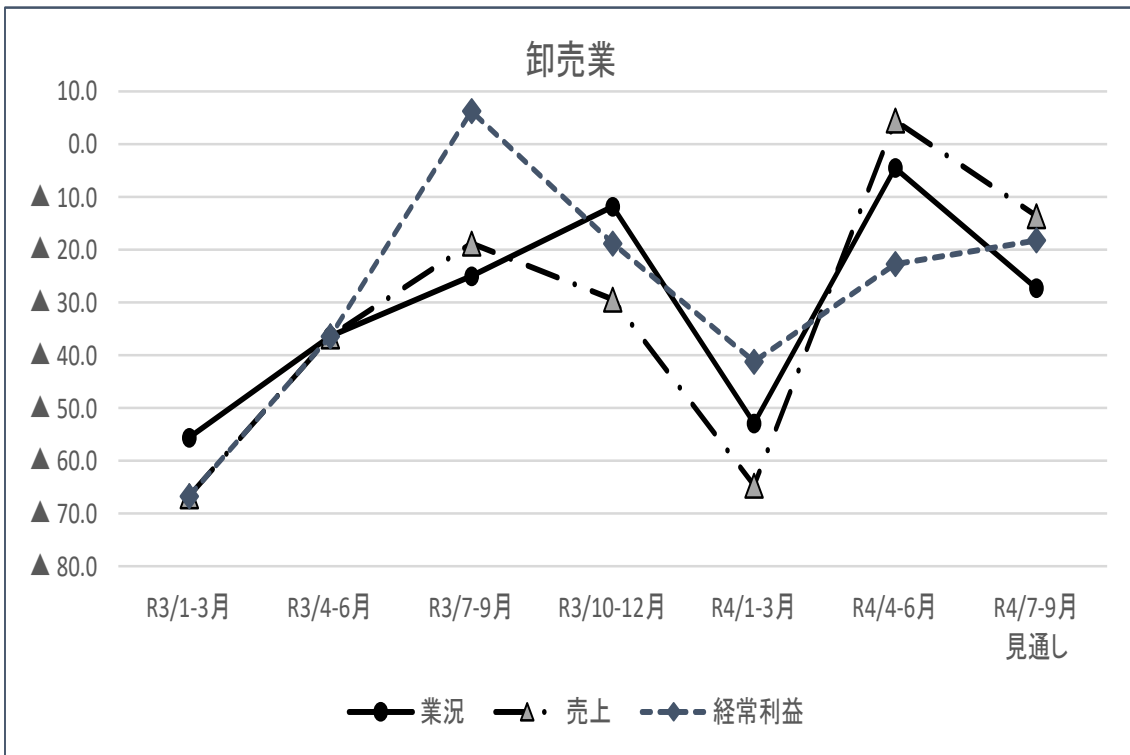
製造業	R3/1-3月	R3/4-6月	R3/7-9月	R3/10-12月	R4/1-3月	R4/4-6月	R4/7-9月見通し
業況	▲ 50.0	▲ 20.7	▲ 4.5	▲ 0.6	▲ 13.2	▲ 12.9	▲ 7.6
生産	▲ 53.8	▲ 15.0	2.3	9.4	▲ 9.1	▲ 8.2	0.6
売上	▲ 51.9	▲ 21.6	▲ 0.8	1.3	▲ 6.3	▲ 2.4	2.3
経常利益	▲ 43.9	▲ 14.4	12.1	12.3	6.3	2.9	4.7
傾向	●	●	●	●	×	●	●
回答社数	108	140	132	155	159	171	171

*傾向…●は好転、▲は横ばい、×は悪化を示す。



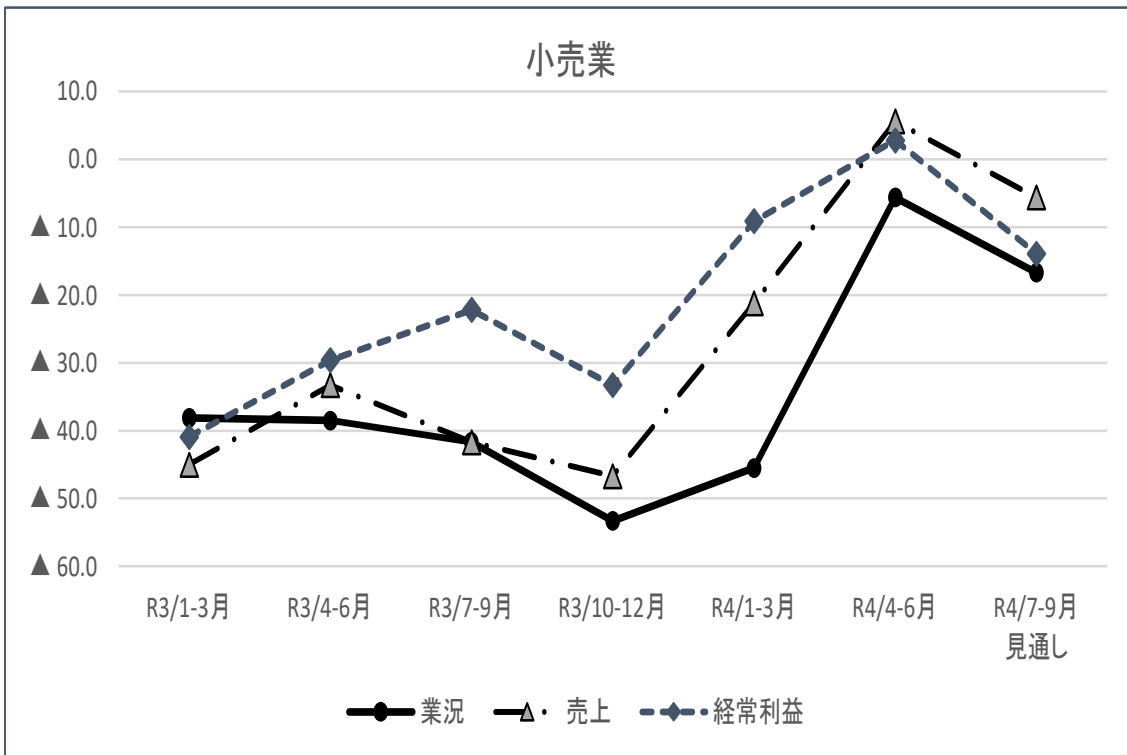
建設業	R3/1-3月	R3/4-6月	R3/7-9月	R3/10-12月	R4/1-3月	R4/4-6月	R4/7-9月 見通し
業況	▲ 33.3	▲ 31.4	▲ 20.8	▲ 22.0	▲ 27.7	▲ 21.9	▲ 21.9
売上	▲ 27.3	▲ 34.3	▲ 27.1	▲ 33.3	▲ 32.3	▲ 21.9	▲ 32.9
経常利益	▲ 23.8	▲ 34.3	4.3	1.7	4.7	11.0	0.0
傾向	×	●	●	×	×	●	▲
回答社数	22	35	48	61	65	73	73

*傾向…●は好転、▲は横ばい、×は悪化を示す。



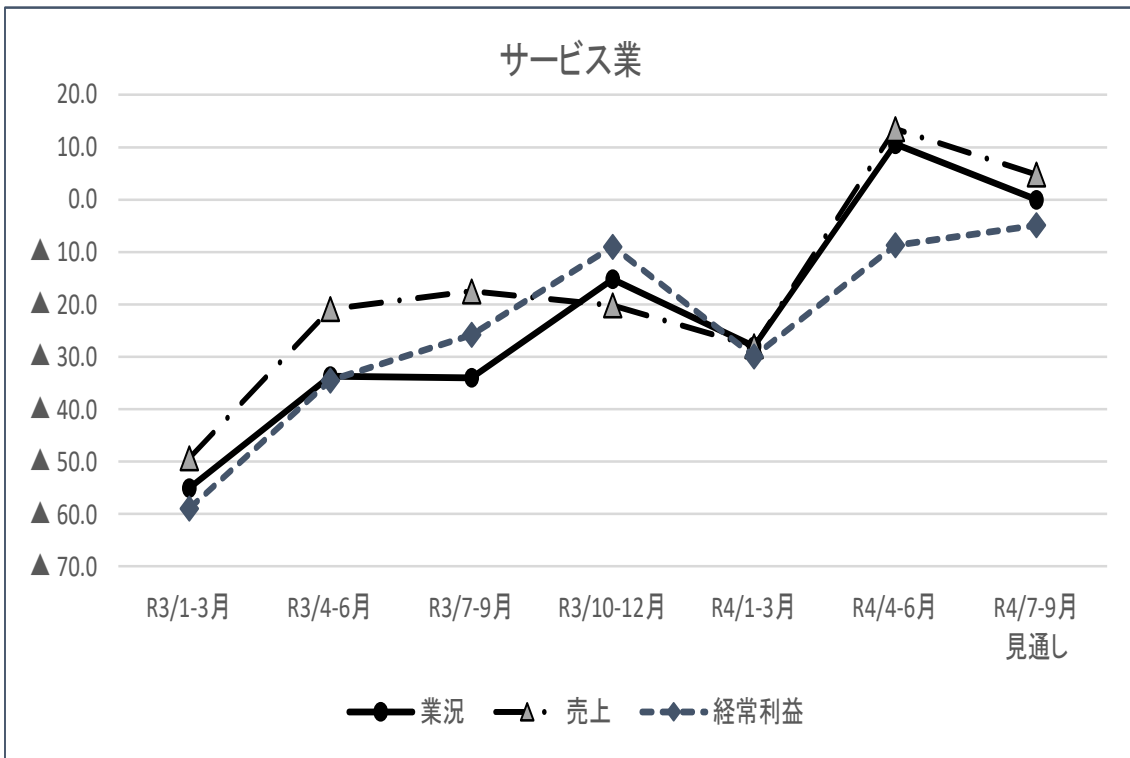
卸売業	R3/1-3月	R3/4-6月	R3/7-9月	R3/10-12月	R4/1-3月	R4/4-6月	R4/7-9月見通し
業況	▲ 55.6	▲ 36.4	▲ 25.0	▲ 11.8	▲ 52.9	▲ 4.5	▲ 27.3
売上	▲ 66.7	▲ 36.4	▲ 18.8	▲ 29.4	▲ 64.7	4.5	▲ 13.6
経常利益	▲ 66.7	▲ 36.4	6.3	▲ 18.8	▲ 41.2	▲ 22.7	▲ 18.2
傾向	●	●	●	●	×	●	×
回答社数	9	11	16	18	17	22	22

*傾向…●は好転、▲は横ばい、×は悪化を示す。



小売業	R3/1-3月	R3/4-6月	R3/7-9月	R3/10-12月	R4/1-3月	R4/4-6月	R4/7-9月 見通し
業況	▲ 38.1	▲ 38.5	▲ 41.7	▲ 53.3	▲ 45.5	▲ 5.6	▲ 16.7
売上	▲ 45.0	▲ 33.3	▲ 41.7	▲ 46.7	▲ 21.2	5.6	▲ 5.6
経常利益	▲ 40.9	▲ 29.6	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 9.1	2.8	▲ 13.9
傾向	●	×	×	×	●	●	×
回答社数	22	27	36	30	33	36	36

*傾向…●は好転、▲は横ばい、×は悪化を示す。



サービス業	R3/1-3月	R3/4-6月	R3/7-9月	R3/10-12月	R4/1-3月	R4/4-6月	R4/7-9月 見通し
業況	▲ 55.1	▲ 33.7	▲ 34.0	▲ 15.2	▲ 28.0	10.6	0.0
売上	▲ 49.4	▲ 20.9	▲ 17.5	▲ 20.2	▲ 28.0	13.5	4.8
経常利益	▲ 59.0	▲ 34.5	▲ 25.8	▲ 9.0	▲ 29.9	▲ 8.7	▲ 4.9
傾向	×	●	×	●	×	●	×
回答社数	83	88	97	101	107	104	104

*傾向…●は好転、▲は横ばい、×は悪化を示す。

② 滋賀県の景況調査 [企業から寄せられたコメント]

滋賀県内企業のコメント (R4/4-6月期)	
業況判断【好転】企業コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で客数が伸びない中、アルバイトが離れてしまい、再度確保していくのが難しい状況である。時給を上げて募集をかけている為、集まったとしても物価高も重なり値上げをせざるを得ない（サービス業）。 ・現状販売用の在庫については、何とかなっているが、中国ロックダウンの影響により、納期遅れ、品不足を予想。今後の生産状況を見守る（小売業）。 ・来期（7～9月）、原材料高騰の影響が出てくる。売価の価格修正ができるかがキーポイントになる（製造業）。 ・中国のロックダウンの影響で機器製造メーカーの在庫不足で、工事案件の見積もり及び受注が難しい状況が続いている（建設業）。
業況判断【不変】企業コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ・部品不足による生産減の影響が続いており、見通しが立たない（製造業）。 ・国内の車の減産で得意先の生産稼働状況が読み辛く、売上が計算できない（卸売業）。 ・売上額は変わらないが、材料費高騰で徐々に苦しくなると思う（建設業）。 ・材料やエネルギーの高騰により、利益が圧縮されるのが心配（製造業）。 ・売上を前期程度に努力しても経費が大きくなっている為厳しい状況である（サービス業）。
業況判断【悪化】企業コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・水産原料の価格上昇や副原材料・資材においてすべて値上げ、特に油は2年前の倍に高騰しており、その値上げ分を商品に転嫁しきれない（製造業）。 ・半導体不足により生産・売上ともに減少（製造業）。 ・販売価格の高騰の悪影響が夏場にかけて出てきそうで、資金繰りも厳しくなりそうだ。（小売業）。 ・原材料の高騰により、安価材料への需要の移行に伴い、悪化する見込み（サービス業）。 ・原材料の高騰、過当競争による利益減少（建設業）。

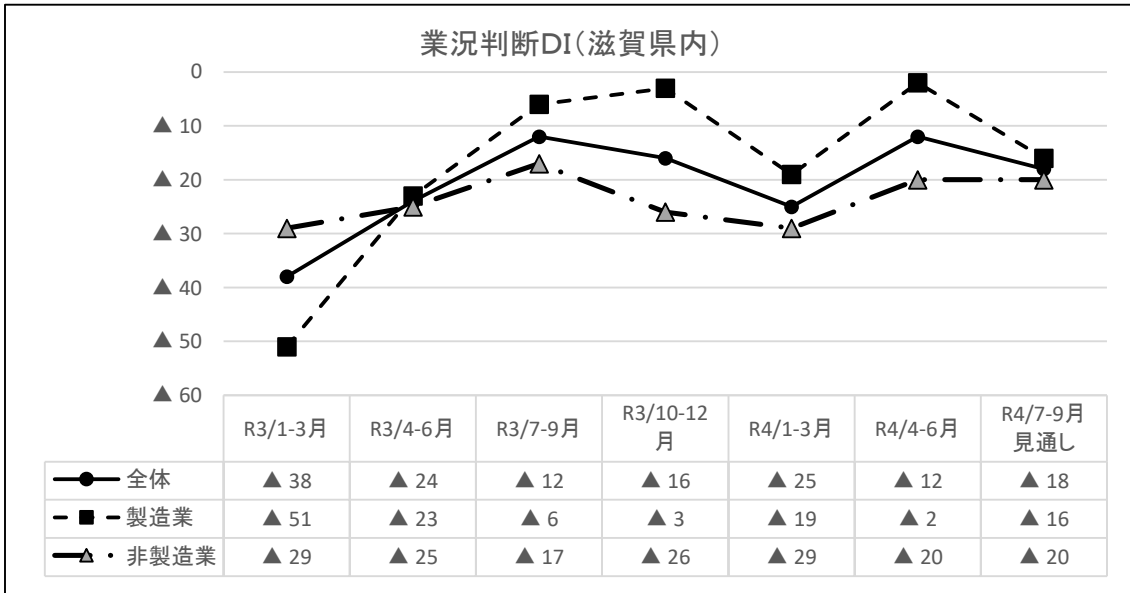
(2) 県内経済概況(株しがぎん経済文化センター編)

① 県内経済概況「概況」(令和4年4月ー令和4年6月)

R4/4	一部で弱い動きが続いているものの、全体に緩やかに持ち直している
	製造業の生産活動は、一部の業種で弱い動きがみられるものの、全体に回復に向けた動きが続いている。需要面では、物価の上昇がみられる中でも日用品は堅調に推移しているが、巣ごもり需要の一巡で不振が続く家電販売や、部品供給の影響がみられる自動車販売などの耐久消費財で低迷が続いている。一方、投資需要では、民間設備投資をはじめ、住宅投資、公共投資はいずれも大幅な増加となった。したがって県内景気の現状は、個人消費の一部で弱い動きが続いているものの、全体に緩やかに持ち直しているとみられる。
R4/5	持ち直しの中で弱含みの状態にある
	製造業の生産活動は、これまでの持ち直し傾向に弱い動きがみられる。需要面では、物価の上昇がみられる中、飲食料品などの生活必需品は堅調に推移しているが、巣ごもり需要の一巡で不振が続く家電販売や、部品供給の影響がみられる自動車販売などの耐久財は低迷が続いている。一方、投資需要では、住宅投資は減少となったが、民間設備投資と公共投資はいずれも大幅に増加している。したがって県内景気の現状は、持ち直し中で弱含みの状態にあるとみられる。
R4/6	持ち直しの動きが広がっている
	製造業の生産活動は、再び持ち直しの動きがみられる。需要面では、物価の上昇がみられる中、飲食料品などの生活必需品は堅調に推移しているが、巣ごもり需要の一巡で不振が続く家電販売や、部品供給の影響がみられる自動車販売などの耐久財は低迷が続いている。一方、投資需要では、民間設備投資をはじめ、住宅投資や公共投資はいずれも大幅に増加している。したがって県内景気の現状は、一部で弱い動きが続いているものの、全体に持ち直しの動きが広がっているとみられる。

※内容は前月データに基づくコメント。

② 県内企業動向調査(R4/4-6月実績、R4/7-9月見通し) [前期比較]



感染状況が改善し、景況感は三四半期ぶりに大幅回復するも、物価急騰の影響でマイナス水準が続く

	回答社数	R4/1-3月	R4/4-6月	傾向	R4/7-9月見通し
製造業	128	▲ 19	▲ 2	●	▲ 16
繊維	11	▲ 58	▲ 27	●	▲ 46
木材・木製品	-	▲ 33	-	-	-
紙・パルプ	-	-	-	-	-
化学	9	11	0	×	0
石油・石炭	-	-	-	-	-
窯業・土石	-	-	-	-	-
鉄鋼	-	-	-	-	-
非鉄金属	-	-	-	-	-
食料品	9	▲ 78	▲ 11	●	▲ 22
金属製品	19	▲ 32	▲ 11	●	▲ 37
一般機械	10	15	10	×	10
電気機械	10	▲ 45	▲ 10	●	▲ 10
輸送用機械	-	-	-	-	-
精密機械	-	-	-	-	-
その他	31	▲ 10	13	●	▲ 3
非製造業	159	▲ 29	▲ 20	●	▲ 20
建設	48	▲ 35	▲ 21	●	▲ 29
不動産	11	30	27	×	27
卸売	24	▲ 36	▲ 38	×	▲ 38
小売	27	▲ 52	▲ 26	●	▲ 25
運輸・通信	9	▲ 17	▲ 45	×	▲ 33
電気・ガス	-	-	-	-	-
サービス	22	▲ 12	0	●	5
リース	-	-	-	-	-
その他	12	▲ 36	▲ 17	●	▲ 17

③ 県内経済概況「県内景気天気図」(変化方向)

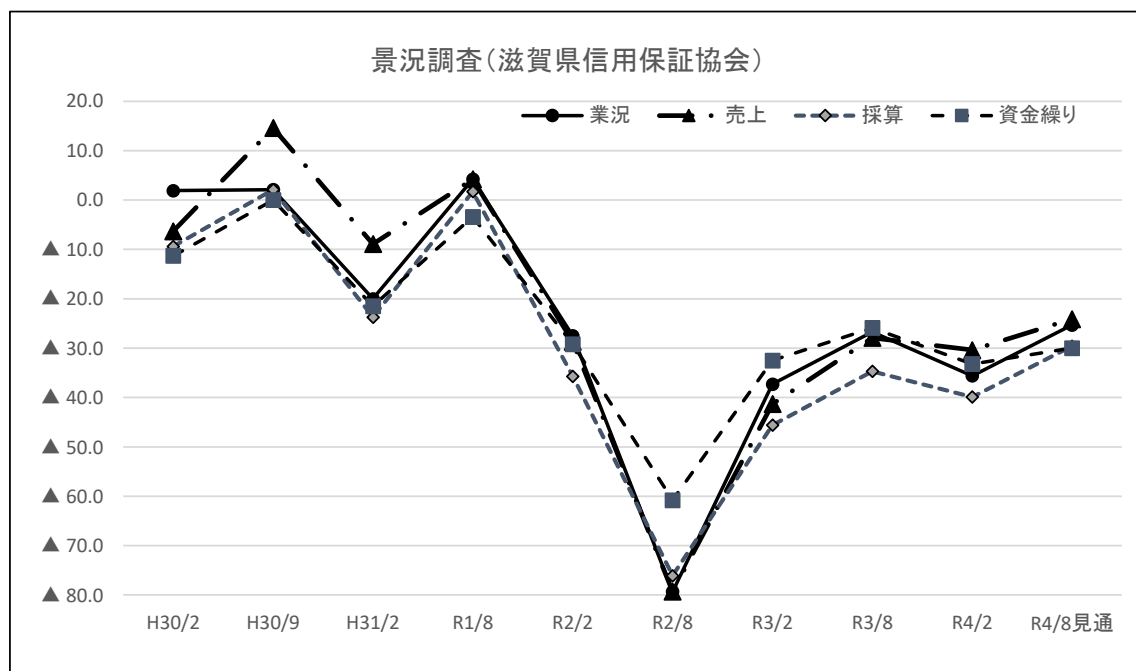
県内景気天気図	R3/12	R4/1	R4/2	R4/3	R4/4	R4/5
現在の景気	×	▲	▲	●	▲	●
3か月後の景気	▲	×	▲	▲	▲	▲
生産活動	×	▲	●	●	×	●
個人消費	×	×	×	●	●	●
民間設備投資	×	●	●	●	●	●
住宅投資	●	×	×	●	×	●
公共投資	●	×	●	●	●	●
雇用情勢	▲	×	●	●	●	▲

* 変化方向…前月比、●は好転、▲は横ばい、×は悪化を示す。

(3) 中小企業アンケート結果(滋賀県信用保証協会編)

○景況調査結果 (R4/2)

実施内容	調査時期：令和4年2月		調査方法：無記名アンケート方式			
		配布数：500	回答数：253	回答率：50.6%		
業種構成	建設業	24.1%	製造業	19.4%	サービス業	16.6%
	小売業	14.2%	不動産業	9.5%	運輸通信業	5.1%
	卸売業	4.0%	その他	5.5%		
従業員規模	5人以下：53.0%	6～20人：28.5%	21人以上：18.2%			



3. 近畿の景況

(1) 地域経済動向（近畿）（内閣府編）

令和4年6月

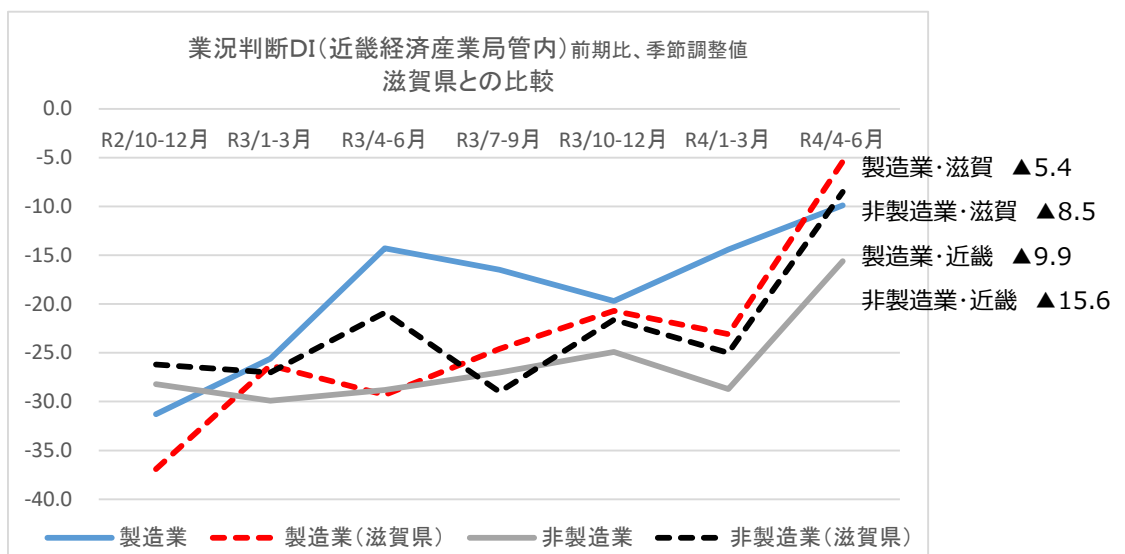
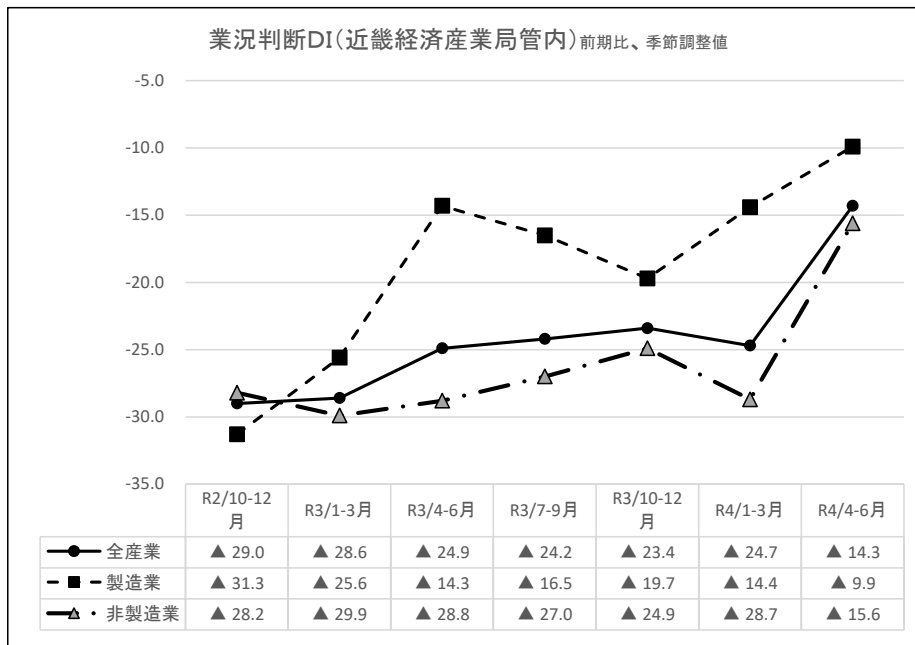
近畿地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

(2) 中小企業景況調査（中小企業基盤整備機構編）

「近畿地域」：業況判断DI [前期比較]

①業種別業況判断DI



4. 全国の景況

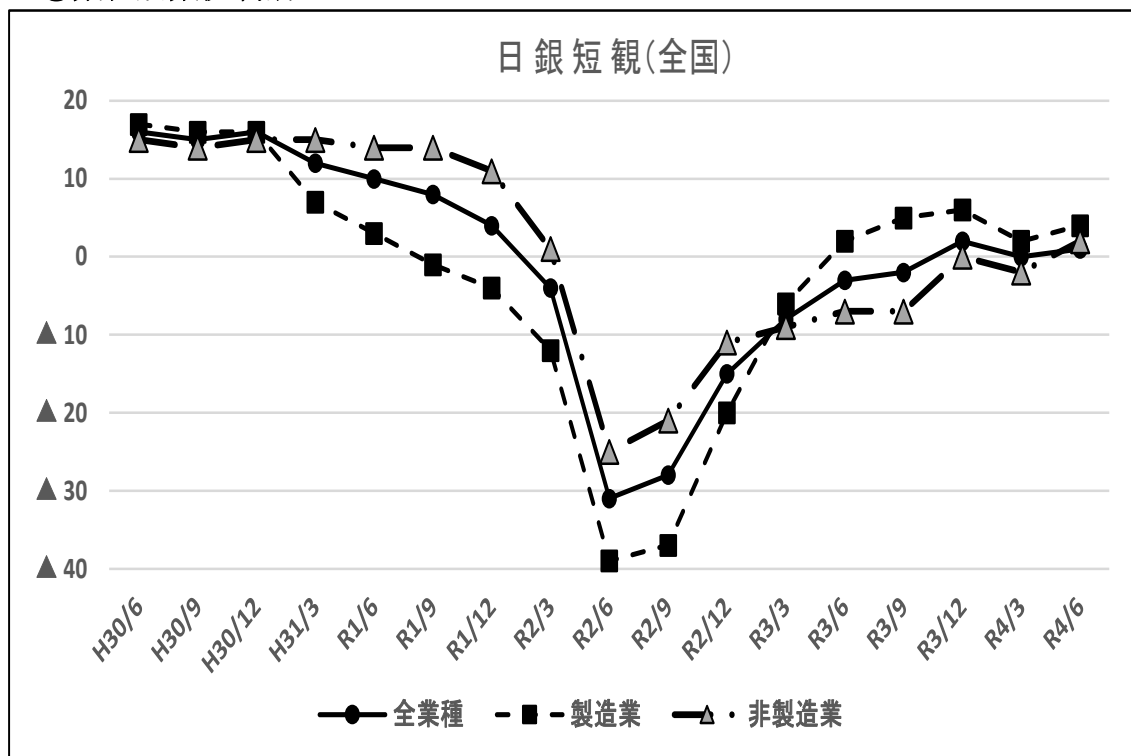
(1) 日銀短観（日本銀行）：業況判断 DI [前期比較]

①概況

- ・大企業製造業は、前回調査（2022年3月調査）から5ポイント悪化の9となった。資源価格の上昇や円安の進行によるコスト高、上海ロックダウンなどの影響によるグローバルサプライチェーンの混乱を背景に、素材・加工業種問わず多くの業種で景況感の悪化がみられた。
- ・大企業非製造業は、前回調査から4ポイント改善の13となった。製造業と同様、コスト高が収益を圧迫した一方、3月後半のまん延防止等重点措置全面解除を受け、対個人サービスや宿泊・飲食サービスなど対面型サービス業を中心に景況感は改善した。
- ・中小企業の業況判断 DI（最近）は、製造業では前回から横ばいの-4、非製造業では5ポイント改善の-1となった。大企業と同様、製造業では資源価格高と円安によるコスト高が業況の改善を阻む一方、非製造業は感染拡大一服と行動制限緩和による需要回復の恩恵を受けたとみられる。

（三菱UFJリサーチ&コンサルティング「経済レポート」(2022年7月1日)より）

②業種別業況判断 DI



③設備投資計画（含む土地投資額）

6月調査では前年設備投資計画の実績が発表される。2021年度の設備投資計画（含む土地投資額）実績は、中小企業がプラスだったのに対し大企業はマイナスの着地となった。世界的なコロナ禍と世界の工場といわれる中国での主要都

市のロックダウンなどでサプライチェーンが混乱したことや、ウクライナ危機の勃発で予定していた投資を延期または中止する動きもあったと思われる。

2022年度の設備投資計画は、大企業、中小企業ともに3月調査より強まっており、製造業では企業規模にかかわらずソフトウェア投資が、非製造業では研究開発投資が目立っている。

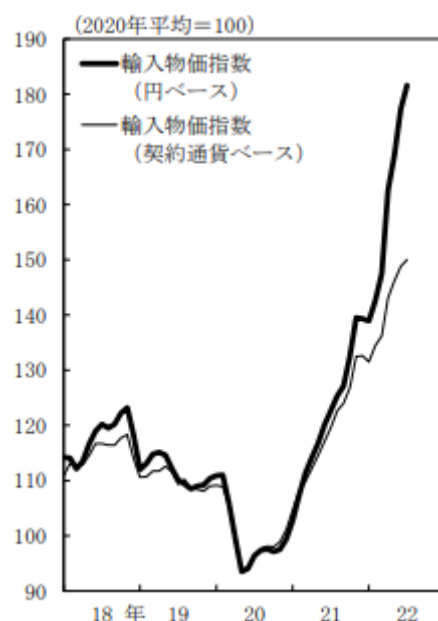
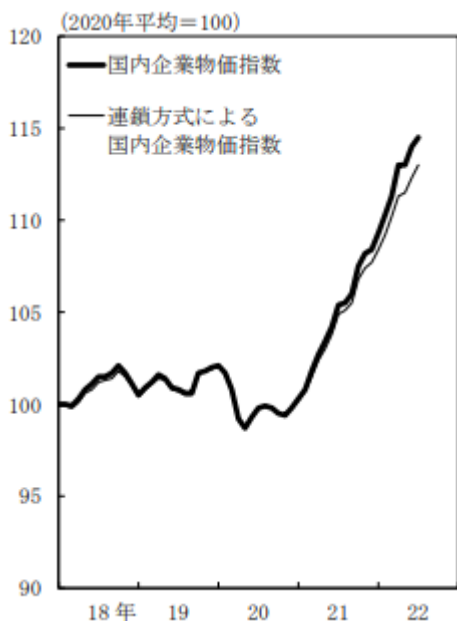
設備投資計画 (含む土地投資額)		2021年度	2022年度 (計画)		ソフトウェア投資額		2021年度	2022年度 (計画)	
		(実績)	3月調査	6月調査			(実績)	3月調査	6月調査
大企業	製造業	-0.5	8.4	21.5	大企業	製造業	8.7	9.5	22.5
	非製造業	-3.3	-1.6	16.8		非製造業	6.4	3.4	8.5
中小企業	製造業	6.8	-1.0	4.8	中小企業	製造業	24.1	23.6	25.0
	非製造業	5.9	-16.9	-4.6		非製造業	28.3	-1.4	6.5

*含む土地投資額、除くソフトウェア投資額及び研究開発投資額

土地投資額		2021年度	2022年度 (計画)		研究開発投資額		2021年度	2022年度 (計画)	
		(実績)	3月調査	6月調査			(実績)	3月調査	6月調査
大企業	製造業	16.0	-29.4	-37.9	大企業	製造業	4.4	2.3	6.0
	非製造業	-19.7	-15.0	24.1		非製造業	-5.8	2.0	7.1
中小企業	製造業	8.4	-57.2	-38.2	中小企業	製造業	1.9	8.3	10.4
	非製造業	25.8	-30.3	-26.5		非製造業	9.7	37.7	58.5

④企業物価指数 (2022年7月速報)

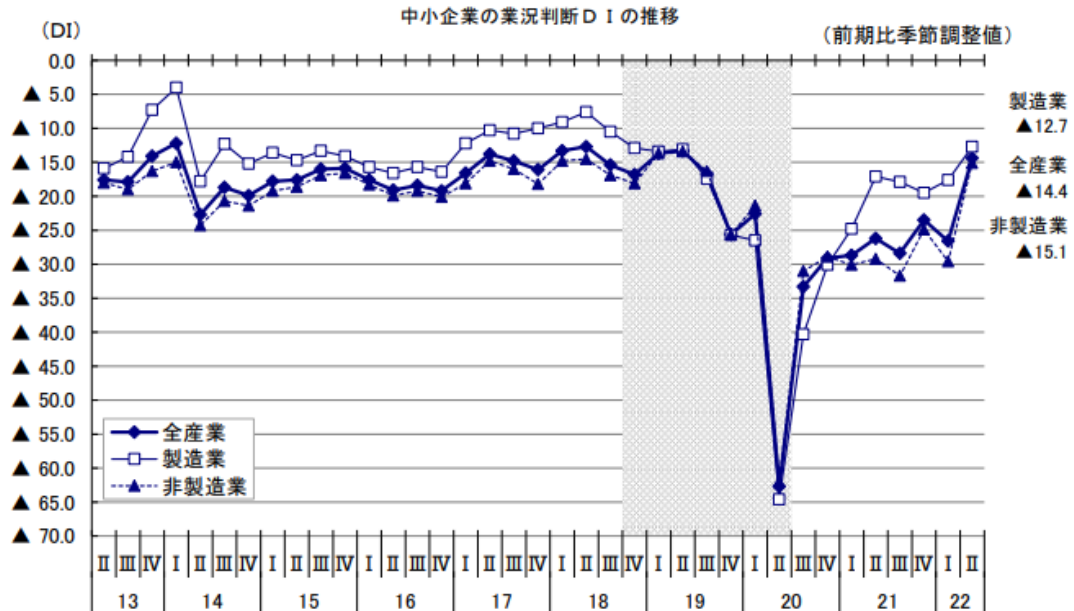
7月の企業物価指数は114.5で統計開始の1960年以降最高、前年比は8.6%でプラスは17カ月連続。これは世界的なエネルギー価格の上昇と穀物価格の高騰が主な原因だが、調査対象515品目のうち81.2%の418品目も前年より上昇した。加えて輸入物価指数が円ベースで181.6(前年比+48.0%)、契約通貨ベースで150.0(同+25.4%)と、円安が企業物価指数の上昇に拍車をかけていることが分かる。



(2) 中小企業景況調査 (中小企業基盤整備機構編) 「全国」 [前期比較]

①業種別業況判断DI

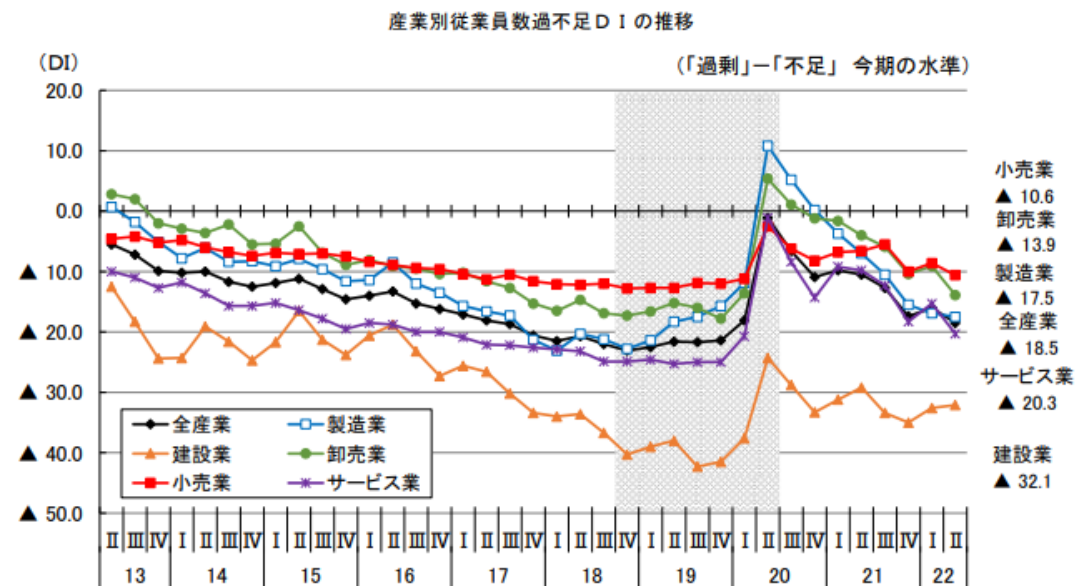
全産業の業況判断DIは▲14.4(前期差 12.2 ポイント増)となり、2期ぶりにマイナス幅が縮小した。製造業は▲12.7(前期差 4.9 ポイント増)で2期連続してマイナス幅が縮小、非製造業は▲15.1(前期差 14.5 ポイント増)で2期ぶりにマイナス幅が縮小した。



(注) シャドー部分は景気後退期

②トピックス：産業別従業員数過不足DI (今期の水準) の推移

全産業の従業員数過不足DI (「過剰」-「不足」、今期の水準)は▲18.5(前期差 2.5 ポイント減)と2期ぶりにマイナス幅が拡大し、不足感が強まった。建設業でマイナス幅が縮小し、サービス業、卸売業、小売業、製造業でマイナス幅が拡大した。



(中小企業診断士 川副 郷一郎)